

明海大学大学院応用言語学研究科主催
浦安市教育委員会後援

第16回応用言語学セミナー

日時：2013年11月16日(土)

場所：明海大学浦安キャンパス

講義棟4階 2407教室

〒279-8550 千葉県浦安市明海1丁目

テーマ：現代における“ことば教育”は
いかにあるべきか

「ことば教育」の問題は、いつの時代でも多くの人の関心をひきつける興味深いテーマです。しかし、グローバル化が叫ばれているわが国で、「ことば教育」というと、通常、外国語、とりわけ「英語の教育」に特化されて論じられることがすくなくありません。そこでは、「大学卒業生が、社会から要求されている生きた英語力を身につけていない」とか、「そのような英語力を効果的に身につけるためには、小学校から大学までの語学教育を根本的に見直さなければならない」といった類いのことがしばしば言われています。しかし、「ことば教育」を論じるとき、英語というひとつの言語に特化した実用的な語学学習というレベルの議論にとどまるべきではありません。むしろ、このような時代であるからこそ、「人間のことば」とは何か、それを教育するとはそもそもどういうことなのかという「ことば教育」の原点に立ち戻って、改めてじっくり考えることが必要だと思います。また、ことばを学ぶということは、単に、コミュニケーションの場において話す、聞く、書く、読む力を学習するというものではありません。論理的に考え、自ら言いたいことを明確にする「ことばの力」を身につけることが重要です。今回のセミナーでは、このようなことを念頭において、日本語、英語、中国語の教育現場、母語教育、あるいは言語学といった多様な立場の方々に登場していただき、多角的な観点から「ことば教育」の本質を考察し、議論を深めていきたいと思ひます。それは、究極的には、「現代において“ことば教育”はどこまで必要なのだろうか」といった根本的な問題にまで話が進んでいくことでしょう。

◆ ご挨拶

応用言語学セミナーは、今年で第16回目を迎えます。第1回を本研究科の設置された1998年に開いておりますので16回目を迎えた本年は、本研究科が開設から16年目を迎えていることを物語っております。

このセミナーは本学の大学院応用言語学研究科を広く、また多くの人に知ってもらうために始めた活動です。開催に当たっては、講演者に本研究科の教員だけではなく、毎回のテーマに合わせて外部講師にもご参加いただいております。また、本研究科の学生も毎回準備段階から参加し、当日は教員と連携して会場運営を行っています。

回を重ねるごとに、広い領域の方々から期待を寄せられるようになり、その回が終わるごとに、次回に向けての準備が始めることが常となり、わが研究科の年間行事の中でも大きなウエイトを占める活動となっています。

本学の応用言語研究科には、1「言語教育」、2「言語行動」、3「言語文化」の三つのコースが置かれています。

これまでの近3回の開催を見ますと第13回(2010年)「言語習得」、第14回(2011年)「言語の多様性と普遍性」、そして昨年(2012年)の第15回「語りの世界」と続けてきています。

前回までの開催テーマを鑑みて、今回は「言語教育」の領域でテーマを取り開催することにしました。

今回のテーマですが、「現代における“ことば教育”はいかにあるべきか」といたしました。少し長いタイトルになりましたが、今というこの時点において、私たちの社会を含めて、広く社会そのものが否応なしにグローバル化に向かう趨勢は否めません。今回は“ことば教育”を通して、或いはその根本に立ち返りながらも発言し、考えていきたいと思ひています。多くの方のご参加を期待しております。

今回の開催が本学の行事の都合から、例年の開催よりひと月早い11月になってしまいました。日程の計画等でご不便をおかけいたしますが、ご海容願ひいたします。

明海大学大学院応用言語学研究科長・外国語学部長 遊佐 昇

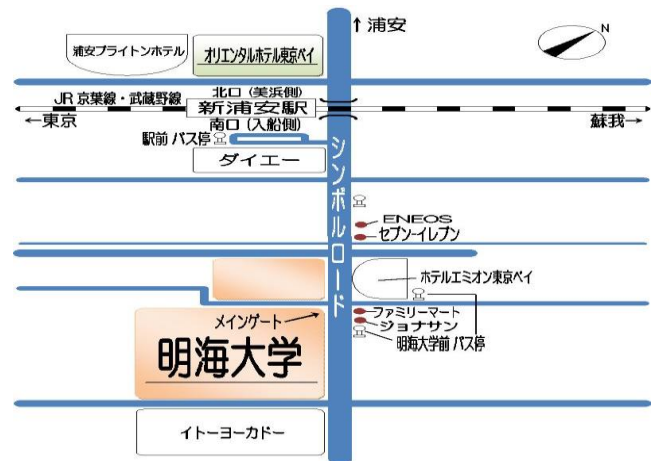
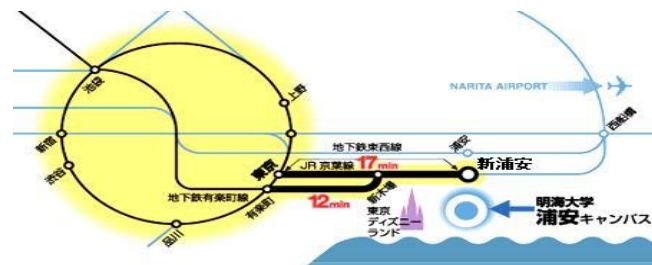
-明海大学応用言語学セミナーのホームページ-

明海大学 第16回応用言語学セミナー 検索

Meikai Applied Linguistics Seminar (MALS)

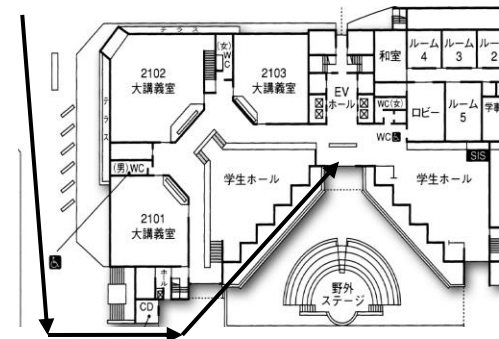
◆ 交通手段

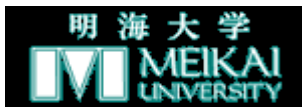
東京駅より JR 京葉線・武蔵野線快速で約17分、新浦安駅下車。南口(入船側、ダイエー方向)からシンボルロードを通って、徒歩約10分。または駅南口ロータリーのバス停から、③⑩⑭⑯番系統のいずれかのバスで約5分「明海大学前」にて下車。運賃140円。



◆ キャンパス略図

会場：講義棟4階 2407教室
*エレベーターで4階までお上がりください。





プログラム

2013年11月16日(土)

講演 2407 教室

9:30 受付開始

10:00 開会

総合司会：山下早代子

10:00-10:05 挨拶

遊佐昇(明海大学大学院応用言語学研究科長・外国語学部長)

午前司会：佐々木文彦

10:05 - 10:55

西川寛之(明海大学 講師)

「教育に用いられる教材が取り上げるものと「ことば」で用いられるもの」

言語教育の一つである外国語教育、特に日本語教育の現状をもとに、「ことば」を教育することができるかどうかを考える。教室内で教材を用いて行われるものを「教育」の1つとして捉え、「教育」の場で取り上げられる項目と、実際に言語の運用上必要な「ことば」の力として求められるものについて考える。

11:00 - 11:50

三森ゆりか(つくば言語技術教育研究所 代表取締役)

「言語技術—基礎としての母語教育」

「国語」は、社会で有効に言葉を用いるための教育になっていない。12年間も学習するにもかかわらず、多くの日本人が社会に出てから文章の読み方、記述方法、議論の仕方などを再学習する状況にある。「国語」では、社会で役立つ言葉

のスキルを指導すると同時に、文学作品等を大量に読ませ、豊かな人間性を育てる必要がある。

11:50 - 12:50 <昼休み>

午後 前半司会：岩下哲典

12:50 - 13:40

刈間文俊(東京大学大学院総合文化研究科 教授)

「TLP(トライリンガル・プログラム)がめざすもの」

英語の成績優秀な学生に中国語の特訓を行えば、どのような効果が生まれるだろうか。東京大学教養学部が今年から始めた TLP は、中国の重要性を見据えた新たな人材養成のプログラムだが、その波及効果は教員の意識改革を迫るほど、大きなものがある。なにをどう教えるのか、知的な中国語とはどうあるべきか、改革は始まったばかりだが、確かな手ごたえを感じている。

13:45 - 14:35

河村昌子(明海大学 准教授)

「中国の国語教科書」

現代中国の「ことば教育」はどのように行われているのだろうか。その一端を窺い知る材料として、中国の「国語」の教科書にあたる『語文』を取り上げる。人民教育出版社及び江蘇教育出版社の義務教育課程7~9年生(日本の中学1~3年に相当)『語文』の内容を紹介する。日本の国語教育や日本における中国語教育の参考になるだろう。

午後 後半司会：尾崎恵子

14:40 - 15:30

和泉伸一(上智大学 教授)

「分析的学習と体験的学習：学習者ビリーフの研究からの示唆」

日本人英語学習者は外国語学習について一体どのような考えをもっているのだろうか。また、そのような考え方はどこに由来していて、実際の学習方法や、その成果としての英

語能力の自信度にどういった影響を与えているのであろうか。本講演では、こういった学習者ビリーフ研究の視点から日本の英語教育のあり方について考えていきたい。

15:35 - 16:25

大津由紀雄(明海大学 教授)

「現代において「ことば教育」はほんとうに必要なか」

今回のセミナーの全体テーマは、「現代における「ことば教育」はいかにあるべきか」であるが、そこにはすでに、「現代において「ことば教育」は必要だ」ということが了解されている。わたくしの話では「現代において「ことば教育」はほんとうに必要なか」を問い直すことによって、「いかにあるべきか」をあぶりだすことを試みたい。

16:30 - 17:30

総合討論「現代における「ことば教育」はいかにあるべきか」

司会：柳澤好昭(明海大学 教授)

閉会 挨拶：西山佑司(明海大学副学長)

18:00 - 20:00

<懇親会> 場所：ホテルエミオン東京ベイ

参加ご希望の方は、お手数ですが11月8日(金)までに電子メール、FAXまたは葉書で、以下の①~⑤を明記の上、お申込み下さい。

①住所 ②氏名(ふりがな) ③電話(FAX)番号

④Eメールアドレス ⑤懇親会参加の可・否

お問い合わせ：明海大学応用言語学セミナー運営委員会

TEL: 047-355-5120 FAX: 047-350-5504

Email:gsalseminar@meikai.ac.jp